

医療に正解はあるのか？

いわむらくりニック(吉田町魚棚) 岩村 文貴



「先生。私は血圧が高いのですが、薬を飲んだ方がいいですか？」よく患者さんにこのような相談をされます。この問いに対して正解はあるのでしょうか。

私個人の意見では血圧の問題を含め「医療」に「絶対的な正解」は存在しないと思っています。なぜならば患者さんの感じ方が人それぞれ違うからです。

血圧が高いまま放置していた場合、心臓病になる確率が10%だと仮定した場合どうでしょうか。この場合、2通りの考えができそうです。

「心臓病になる確率が10%もあるの？心配なので薬を飲みます。」

「心臓病になる確率がたった10%？それくらいだったら薬を飲まなくていいです。」

いかがでしょうか。両者正反対ですが、どちらの意見も

筋が通っていると思いませんか。この場合は薬を「飲む」という選択も「飲まない」という選択も、どちらも正解だと思っています。

患者さんそれぞれに歴史があり事情があり、性格や考え方も違います。従って患者さんが主治医と一緒に考えて選んだ治療法が正解です。薬を飲みたくない患者さんに強制するようなことがとても正しいとは思えません。検査も例外ではありません。最終的にどのような治療を選ぶかは患者さんの自由です。最も大切なのは本人が楽しい日常を送れるかどうかであり、それがあまりにもないがしろにされていないでしょうか。

とはいえ、患者さんが自分で治療方針を決めるのは難しい場合が多いでしょう。自分の判断だけで薬をやめるのは危険です。そのためには気軽に

に相談できる医師が必要で、信頼できる医師を見つけて一緒に考えましょう。どんなささいなことでも相談して良いと思いますよ。

テレビ番組、雑誌などの影響で心配になる人も多いのではないのでしょうか。「糖尿病は怖い病気なの？」「コレステロールが高いと怖いのか？」「がん検診は受けた方がいいの？」これらの問いに対して「も正解はありません。『個別』にじっくり考える必要があります。お悩みの人は気軽にいつでも相談してください。」

余暇のひととき

からたち句会

萌の会

吉田短歌会

金平糖おさなと嗜みて日向ぼこ 風花や恩師見送る小さき駅 石積んで積んで段畑耕せり 半島をくすぐってをり春の波 梅日和鯉の口より水輪かな 如月の心音に似し雨の音 厄落すには外燈の明かる過ぎ 靴音の行き交ふホーム春を待つ 麦踏みの子父寡黙に行きぢがふ 陽春のバス待つ客に残んの月 気丈なる妣の形見の冬薔薇 存らへしものに等しく雪降り 如月の梁の太さや酒倉は 一村の動きを止める余寒かな 戦没の父持つ夫よ梅蕾む 孤高なるリヤマの眼も冬ざるる ニン月の落暉は円く海に冷め 冬桜視野の余白を占領す	下萌やみどり児眠る乳母車 潮止めの水門堅く梅祭 金色の阿弥陀立像冴返る 豆撒きや泣く子笑ふ子鬼の保母 閻魔王拜して残る寒さかな	白菜のわらの鉢まきときやれば割れ目に早も 黄の花のぞく わらべ唄子等歌いつつやはらかき春光の中長 堤をゆく さしのぼる朝日に向かい手を合わす今日の幸 せ声に出でつつ 蘭玉の枝垂るる中に遠き日のやさしき母の面 影浮かぶ 昔日の君恋ふ心に何処か似て心うきうき春待 つこの頃	児玉 隆子 田中 松江 浜田 京子 丸内 松美 青野ひろ美 二宮 洋子 宮川 千穂 芝元 孝子 清家 幸子 大谷 重弘 清家 須子 本田 八千代 稲田 ひふみ 秋保 櫻子 重村 眞子 新森 しの 土山 吐舟 加賀城 燕雀	今井久美子 今城 妙子 櫻井 良子 宮崎 道子 森田 たみ	加賀山 愛 長谷みつる 奥平美代子 岡田 幸子 伊豫路たく磨
--	---	---	---	---	--